

# 「杜のスタジアム」

外苑の緑と水とスポーツのネットワークをつなぐスタジアム  
歴史ある神宮の緑をつなぎ、100年後を見据え、大地に根ざす「生命の大樹」として市民に開かれたスタジアムを創ります



南東より鳥瞰イメージ (競技大会後 30 年の姿)



右上; 南側外観イメージ



右下; スタジアム内観イメージ

新国立競技場整備の基本的考え方 一業務要求水準書 第3章 施設整備より一

周辺環境と調和し、最先端の技術を結集し、我が国の気候・風土・伝統を現代的に表現するスタジアム

人にやさしく、誰もが安心して集い、競技を楽しむことのできるスタジアム

地域の防災に役立ち、地球全体の環境保全に貢献するスタジアム

できる限りコストを抑制し、東京大会開催に間に合うように確実に完成させる

広く市民に開かれた  
"木と緑のスタジアム"

臨場感と見やすさ、競技者の  
力を引出す"皆のスタジアム"

持続的な森を形成する大地に近い  
"環境共生型スタジアム"

コスト・工期を縮減する  
"シンプルな同断面の構成"

提案 1 最高高さ50m以下、水平庇の連続  
最高高さを50m以下に抑え、日本の気候風土にあった深い軒庇により日射を遮ります (P23 参照)

提案 4 様々な人のアクセスに配慮  
人々が安心して楽しめる世界最高水準のユニバーサルデザインの施設を創ります (P18 参照)

提案 7 卓越風を活かした「風の大庇」  
地域の風の特徴を分析し、適切な風環境をスタジアム内につくります (P24 参照)

提案 10 片持ち形式のシンプルな屋根  
シンプルな架構の繰返しにより、工期とコストの縮減を実現します (P26 参照)

提案 2 市民活動をいざなう  
「空の杜」「大地の杜」  
5階に「空の杜」を設け、1階の「大地の杜」とつなぎ、市民に開かれた施設を創ります (P23 参照)

提案 5 競技者と観客の一体感と  
臨場感の創出  
360°連続したすり鉢状の3層スタンド構成により安全と見やすさ、臨場感を共存させます (P29 参照)

提案 8 外苑の杜につながる大樹と  
雨水を利用したせせらぎの創出  
外苑とつながる緑や渋谷川の記憶の継承など緑と水の環境を創ります (P23 参照)

提案 11 高性能制振構造の採用  
耐震性能、工期、コストなどを総合的に勘案し、耐震性に優れた制振構造を採用します (P27 参照)

提案 3 木と鉄のハイブリッド屋根構造  
木の集成材と鉄骨トラスを組み合わせた屋根のシンプルな架構の繰返しにより、伝統的な「和」を表現 (P26 参照)

提案 6 アスリートファーストの環境整備  
充実した選手エリアと専用動線により最高のパフォーマンスが発揮できる環境を創ります (P29 参照)

提案 9 8万人の円滑で安全な避難  
観客席を1層スタンドに多く配置した大地に近いスタジアムにより円滑な避難を可能にします。 (P31 参照)

提案 12 徹底したユニット化、  
工場製作の促進  
可能な限りユニット化、工場製作を図り、また高所作業を徹底的に減らします (P28 参照)